

問1 室町時代の京都において、応仁の乱などの戦乱によって荒廃した都市を復興させ、自衛や自治のために組織を結成した有力な商工業者を何と呼びますか。（2024年 石川公立入試 類似）

1. 町衆 2. 惣 3. 株仲間 4. 五人組

問2 1333年に足利尊氏や新田義貞らの協力を得て鎌倉幕府を滅ぼした後、後醍醐天皇が自ら中心となって始めた、天皇による新しい政治体制を何と呼びますか。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 院政 2. 建武の新政 3. 摂関政治 4. 寛政の改革

問3 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げた承久の乱の後、幕府が朝廷の監視と西国の統轄を強化するために京都に設置した役職と、その後の政治の動きとして適切な組み合わせを選んでください。（2023年 歴史公立入試 類似）

1. 六波羅探題の設置と、鎌倉幕府滅亡後に後醍醐天皇が行った建武の新政 2. 問注所の設置と、北条時宗がモンゴルの襲来に備えて行った異国警固番役の強化 3. 評定衆の設置と、足利尊氏が光明天皇を擁立して始めた北朝の政治 4. 守護・地頭の設置と、源頼朝が全国に支配を広げるために行った平氏の追討

問4 日明貿易で使用されたある道具について、縦長の紙の中央に「號」などの漢字が書かれ、その右半分に割印（半分に分かれた印影）が押されている様子を説明した資料があります。この道具を用いた貿易の目的や背景として最も適切なものはどれですか。（2019年 奈良公立入試 類似）

1. 明の皇帝から日本国王として認められた義満が、朝貢形式で利益を得るため、倭寇ではない正規の船を証明する必要があった。 2. 勘合貿易を通じて得られた宋銭を日本国内に流通させ、貨幣経済をさらに発展させる必要があった。 3. 元寇の際、元との緊張状態にあったが、民間レベルでの細々とした貿易を継続するために印が必要であった。 4. 鉄砲やキリスト教の伝来を受け、それらの輸入品を江戸幕府が一括して管理するために発行された。

問5 室町時代中期の1467年に始まり、細川勝元と山名宗全の対立などを背景として11年間にわたって続いた、戦国時代の幕開けともされる戦乱の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2025年 大阪公立入試 類似）

1. 応仁の乱 2. 承久の乱 3. 保元の乱 4. 観応の擾乱

問6 15世紀頃の琉球王国が、東アジアにおける「中継貿易」の拠点として大きく発展することができた理由を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2024年 山梨公立入試 類似）

1. 中国と日本の間に位置するという地理的利点を活かし、周辺諸国の産物を運び入れて取引したため 2. オランダから最新の航海技術を導入し、日本を bypass して直接ヨーロッパ諸国と貿易を行ったため 3. 国内で金や銀などの鉱物資源が豊富に採掘され、それらを主要な輸出銘柄としていたため 4. アメリカから輸入した農作物を大規模に栽培し、東アジア全域に供給する供給源となったため

問7 室町時代、3代将軍の足利義満が中国の明（みん）との間で開始した貿易に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2017年 富山県公立入試 類似）

1. 海賊である倭寇と正式な貿易船を区別するため、「勘合」と呼ばれる札を使用した。 2. 平清盛が中心となり、宋の貨幣を大量に輸入するために「大輪田泊」を整備した。 3. 江戸幕府がキリスト教の布教を防ぐため、貿易を許可された船に「朱印状」を与えた。 4. 元（モンゴル）との外交関係を修復するために、鎌倉幕府が公認の貿易船を派遣した。

問8 室町文化における芸術の発展について、観阿弥・世阿弥親子が果たした役割とその背景を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2017年 奈良公立入試 類似）

1. 足利義満の保護を受け、民俗芸能であった猿楽に歌舞や物語の要素を加え、象徴的で洗練された舞台芸能へと高めた。 2. 江戸時代の元禄文化において、町人の生活や義理人情を題材にした劇を創作し、庶民の間で爆発的な人気を博した。 3. 安土桃山時代に、華やかな衣装や独特の化粧法を取り入れた踊りを創始し、新しい都市文化の象徴として広めた。 4. 三味線の伴奏に合わせて精巧な人形を操る技術を確認し、歴史上の物語を視覚的に分かりやすく表現する工夫を行った。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 町衆	室町時代の京都では、豊かな経済力を持つ商工業者たちが「町衆」と呼ばれる自治組織を形成しました。彼らは応仁の乱で荒れ果てた町の復興を主導し、自分たちの手で町を管理・運営しました。一方、選択肢にある「惣（惣村）」は同時期の農村における自治組織であり、「株仲間」や「五人組」は江戸時代の制度です。
問2	答え 2 建武の新政	鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇はそれまでの幕府による政治を否定し、天皇が直接政治を行う理想を掲げました。この政治は元号にちなんで「建武の新政」と呼ばれますが、武士の期待に十分に答えられなかったため、短期間で崩壊することとなりました。
問3	答え 1 六波羅探題の設置と、鎌倉幕府滅亡後に後醍醐天皇が行った建武の新政	承久の乱で勝利した鎌倉幕府は、朝廷を監視し、京都や西国の武士を統制するために六波羅探題を設置しました。その後、鎌倉幕府が滅亡すると、後醍醐天皇によって天皇中心の政治を目指す建武の新政が開始されましたが、武士の不満を招き短期間で崩壊しました。
問4	答え 1 明の皇帝から日本国王として認められた義満が、朝貢形式で利益を得るため、倭寇ではない正規の船を証明する必要があった。	日明貿易は、足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を与えられたことで始まり、中国の皇帝へ貢物を届けてお返しをいただく「朝貢（ちょうこう）」という形式で行われました。説明にある「割印のある札」は勘合（勘合符）であり、明側と日本側がそれぞれ保管していた札を照合することで、明が最も警戒していた海賊（倭寇）を排除し、正式な貿易船のみを受け入れる体制を築きました。なお、宋銭の輸入は鎌倉時代以前から続く平氏の貿易などの特徴であり、鉄砲の伝来は戦国時代以降、江戸幕府の管理は朱印船貿易にあたります。
問5	答え 1 応仁の乱	足利将軍家の跡継ぎ問題と、幕府の政治を支える有力な守護大名の権力争いが結びついた戦乱です。京都での戦いは長期化し、守護大名たちが領国を離れて京都に滞在し続けたため、各地の在地勢力が力を蓄える結果となりました。
問6	答え 1 中国と日本の間に位置するという地理的利点を活かし、周辺諸国の産物を運び入れて取引したため	琉球王国は自国の資源だけでなく、中国の陶磁器や絹織物、日本の刀剣や硫黄、東南アジアの香辛料などを預かり、それを他の国へ転売する「中継貿易」によって莫大な富を築きました。万国津梁の鐘の銘文にあるように、周辺諸国の優れた文化や品々が集まる環境が、王国の繁栄を支える仕組みとなっていました。
問7	答え 1 海賊である倭寇と正式な貿易船を区別するため、「勘合」と呼ばれる札を使用した。	足利義満は、明の皇帝から「日本国王」として認められる形で、公式な国交である日明貿易を開始しました。当時、東アジアの沿岸部では倭寇と呼ばれる海賊の活動が盛んであったため、明側は海賊船を排除することを強く求めていました。これに応じる形で、幕府は「勘合（勘合符）」という割印を施した札を明から受け取り、それを所持する船のみを正式な貿易船と見なす仕組みを整えました。
問8	答え 1 足利義満の保護を受け、民俗芸能であった猿楽に歌舞や物語の要素を加え、象徴的で洗練された舞台芸能へと高めた。	能楽は、幕府の権力者である足利義満の強力なバックアップを得たことで、単なる娯楽から高い芸術性を備えた芸能へと進化しました。観阿弥が土台を作り、息子の世阿弥が「風姿花伝」などの理論書を著すことで、芸術としての地位を不動のものにしました。他の選択肢は、江戸時代に発展した歌舞伎や人形浄瑠璃（文楽）の内容です。